

ゴールデンではなかった(?) ウィーク

例年だと、スケジュール調整にてんてこ舞いのムネランチ会長であるのだが……。午前中に山辺杯（柔道）を見て、午後からは全軟の野球の応援に行く。明日はスポーツマニア杯を見て、通信陸上の取材だ。卓球の斎藤清杯も見に行きたいしバレーの西川町水芭蕉カップや南陽さくらカップの取材にも行きたい。剣道の朝日町長杯もあったな。ちょっと遠出して新庄もみの木ライオンズ杯（ソフト）や鶴岡スプリングサッカーフェスティバルを見に行ってみるかな。水泳や体操・新体操部の練習も見に行かねばなど、時間をやりくりして各部の取材をしている時期なのだが……。モンテディオ山形の試合もなく応援にも行けない。テレビでもスポーツ番組はやっていない。全くもってゴールデンではない。

ムネランチ会長は、さらに大きな危機感をもっている。かれこれもう、4ヶ月も審判（サッカー）の笛を吹いていないのだ。大きなルール改正の年でもあるのだが、今後対応できるのか。オンライン講習でイメージトレーニングをし、朝のランニングで体力の低下を補う。職場や家庭で常にイエローカードを突きつけられているムネランチ会長にとって、審判をしている時だけが、自らイエローカードを使うことができるのに……。高齢のムネランチ会長的には、このまま審判としてのキャリアも終わってしまうのではないかと危惧している。ゴールデンではないウィーク、趣味のスポーツを奪われたムネランチ会長は悲しみに暮れ、ひたすら畑を耕していた。



ムネ爺は、毎年5月3日に行われている「神町まつり」が中止になったことにショックを受けている。今年のゲストは元体操日本代表の池谷幸雄さんで、神中体操部とのコラボ企画も予定されていたのに……。全くもってゴールデンではない。若木神社は、日本に1つしかない瘡瘡（ほうそう＝天然痘）神社である。神町地区の氏神様であり、若木大権現として東北一円の信仰を集めていた神社なのだ。むかしむかし最澄が若木山を訪れた時、若木山は真っ赤に輝いていた。最澄は17日間の修行を積み、原因となっていた石を鎮めたという。最澄は「この赤い石こそが瘡瘡のもとになるものである。若木大権現をまつりなさい。」と言って立ち去ったという。

あれ？ 現在話題になっている「アマビエ」みたいだ。江戸時代の後期に肥後国（今の熊本県）に表れたアマビエは「当年より6ヶ年の間は諸国で豊作が続くが疫病も流行する。私の姿を描き写した絵を人々に早々に見せよ。」と告げ、海の中へと帰って行った。その後、「アマビエ」の絵はお守りとして人々が持つようになったという。



でもなあ、そもそも絵に描いてお守りにされたのは瘡瘡の神様の方が早いはず。そういえば、瘡瘡の潜伏期間は13日ぐらいだったらしい。新型コロナウイルスとほぼ同じではないか。昔の人は瘡瘡の神様を福の神として大事にしていたらしい。もしかすると若木大権現は、現代社会の救世主かもしれない。ムネ爺は若木神社を訪れ、神町地区と神町中学校さらには全世界の安全と発展を、4時間かけてお祈りしてきた。来年こそ、ゴールデンなウィークになりますようにと。